

平成 28 年度 国際関係論専攻 調査研究助成金

調査・研究報告書（春学期申請分）

申請者：B1566322 森下元哉

所属：上智大学 大学院 グローバルスタディーズ研究科 国際関係論専攻 博士前期課程

研究課題：セネガルの民主化とパトロン・クライアント関係の変容

### 調査背景

アフリカの国家を説明するときの概念として頻繁に引用される新家産制国家、この国家の内部はインフォーマルな個人的な関係性、すなわちパトロン・クライアント関係によって政治が大きく動かされる。この新家産制国家の典型例としてセネガル共和国（以下セネガル）が挙げられる。セネガルの国内に存在しているインフォーマルな関係性は国家と宗教指導者、宗教指導者とその弟子の間で構築されており、三重の構造になっている。またセネガルで特徴的なのはこの宗教指導者が政治的な意味合いで仲介者として存在している点である。セネガルが独立してから 2000 年までの間の約 40 年、一党支配体制が存続してきたのは、国家の指導者がこのインフォーマルな関係を巧みに利用し、自らの正当性を維持してきたことが指摘されている。実際、一党支配体制期のセネガル社会党への得票率は 90% 近くあり、投票行動に関しても行動を制限する命令などが存在していた。

セネガルは新家産制国家としての汚職の蔓延や、Hybrid Regime などと関連付けられる一方で、2000 年には政権交代を経験し、現在では国際的に民主主義の指標が高く、Democracy index 2015ver<sup>1</sup>では西アフリカ諸国の中では 2 番目に位置している。

この経緯を踏まえて、セネガルの民主化の指標と、国家としての新家産制国家の特色を帯びたセネガルのインフォーマルな関係性はセネガル国内にどのように存在しているのか。申請者の研究の目的はセネガルで民主化以降のパトロン・クライアント関係がどう変化したのかである。

### 調査目的

今回、現地へ赴いた目的は主に現地へしか収集できない情報を獲得するためである。例えば現地の国立大学の図書館や、私立大学の図書館の訪問である。また、現地へしか入手できない情報として政党関係者、メディア関係者、現地の人々へのインタビューである。今回の現地調査はそれらの機会を設けるために赴いた。セネガルが民主化して以降、16 年が経過するが、現地の状況を深く理解することも目的の一つである。

---

<sup>1</sup> Democracy index

[http://www.isie.tn/wp-content/uploads/2016/01/Economist\\_Intelligence\\_Unit-Democracy-Index-2015.pdf](http://www.isie.tn/wp-content/uploads/2016/01/Economist_Intelligence_Unit-Democracy-Index-2015.pdf)  
(accessed 2016/7/25)

## 調査日程・方法・内容

### 1. 調査日程：8/27-9/12

8/27：移動日

8/28.9：調査準備日

8/30：シェイクアンタジョップ大学（旧ダカール大学）にて資料収集。

8/31：ダカール市内の書店を巡り資料収集。

9/1：前日に収集した資料の読み込み。

9/2：資料の読み込み。ワッカム市内のフィールドワーク。

9/3：宿泊先の近くの商店街でインタビューの実施。（使用言語はフランス語、英語）

9/4：インタビュー記録のまとめ作業。

9/5：宿泊先の近くの商店街でインタビューの実施。（使用言語はフランス語とウォロフ語）

9/6：ISM（現地のビジネススクール）にて資料収集。

9/7：CESAG（現地のビジネススクール）にて資料収集。セネガル民主党の広報担当者の方にインタビュー。

9/8：セネガル社会党の書記の方にインタビュー。ホンボル市長の方にインタビュー。国営放送 RTS にてインターン生にインタビューを実施。

9/9：国営放送局 RTS のスポーツ局の人にインタビュー。

9/10：調査予備日

9/11：調査予備日

9/12：移動日

### 2. 方法・内容

主な調査内容は資料の収集や現地の人々、政党関係者、メディア関係者に対してのインタビューである。資料収集に関しては現地の国立大学、教育機関を訪れた。インタビューに関しては、滞在先のダカールのワッカム市内の市民に聞き取り調査を実施した。人数は合計で30人近くになる。使用言語はフランス語、ウォロフ語と英語である。質問内容は主に政治に関する内容、とりわけ投票行動、宗教指導者のマラブーのとの関係についての意識調査である。市民からは民主化以降のセネガルの市民の政治に関しての意識、意見を聞くことができた。また政党関係者、メディア関係者に対しては、政党の公約や選挙の戦略、マラブーとの協力関係に関してである。政党関係者は主にセネガル社会党、セネガル民主党、与党連合の APR に所属しているホンボル村の市長などにお話を伺えた。これらの関係者からは政権交代の原因や、現在の国内政治の状況なども聞くことができた。

### 3. 調査・研究報告（調査・研究によって何をどこまで明らかにしたか）

今回の調査目的はセネガルで民主化後のパトロン・クライアント関係がどのように変

化したかを調査することである。今回の調査では、現地の国立大学や他の教育機関の図書館を訪問し、資料を収集した結果、英語文献のセネガルの政治史、またセネガルの宗教に関する資料をいくつか手に入れることができた。

また政党関係者、メディア関係者や、現地の人に聞き取り調査を行った結果、民主化以降のセネガルのパトロン・クライアント関係にある程度の変化が表れていることが確認できた。例えば、意識調査での回答では、一党支配体制の時とは異なり、投票する時は個人の自由で政党に投票できるとのことであった。また、政党支持の面でも民主化以前の時とは異なり、セネガル民主党と与党連合 APR への支持がほぼ半分にわかれており、一つの政党への大多数の支持は見受けられなかった。このことから民主化以前のパトロン・クライアント関係の変化があったことが伺える。今回の調査で明らかにできなかったことはこの関係性の変化を民主化が原因で変化したのかを判断するには至らなかったことである。

また宗教指導者のマラブーと政治の関係性を詳細まで調査できなかったことである。例えば政党関係者にインタビューを行った時にマラブーは政治に関わっていないと回答をいただいたが、裏付けの証拠を聞くまでには至らず、詳細な情報を得ることはできなかった。変化は見受けられたのにもかかわらず、何がどこでどう変化したのかを結論付けるまでには至らなかった。

今後の課題としては、今回の調査結果を申請者の課題である修士論文の仮設の構築に活かしたい。